

心肺蘇生とAEDを体験 日本赤十字社の指導で手順再確認



⑫福山市神辺ブロック

7月11日、福山市公衛協神辺ブロック協議会の研修会が開催されました。

公衛協から、「研修テーマは心肺蘇生とAEDで行いたい」という相談があり、オーダーメイド研修とブラットフォーム・かんほきよの枠組みを活かして、日本赤十字社

島支部と連携した研修を実施しました。研修は、座学から始まり、日本赤十字社指導員から、福山管内の救急車の台数、去年の出動回数、平均到着時間など、福山の緊急通報の状況について話を聞き、救急車の適正利用の必要性を確認しました。その後、心肺蘇生やAEDが必要な状況、AEDがどのような機械なのかを教わり、実習へ移りました。

まず心肺蘇生について、救助者自身の安全を確保すること、周囲に人がいれば、指名して支援を求めることなどのほか、胸骨圧迫の深さやテンポなど連の流れを教わりました。人形や訓練用のAEDを10体使い、参加者全員が心肺蘇生やAEDの使い方を体験し、手順や役割を再確認することができました。

複数人で救助にあたり、心肺蘇生を途切れさせないことが救命につながることを、AEDのパットの貼り付けは、立体的に心臓をほさむ形が理想であることな



深さやテンポに気をつけながら胸骨圧迫に取り組む参加者



心肺蘇生のために周囲の人に呼びかける練習をする参加者

ど、さまざまな助言を得ながら実習を行いました。

日本赤十字社には講師派遣制度があり、心肺蘇生や子どもの看病、認知症理解などを学ぶことができます。また、献血協力団体や法人会員は講習負担金が免除されます。献血事業を行っている公衛協は、講師派遣制度が利用できるのも、必要に応じて相談し、地域の安全安心につながるきっかけにしてほしいか

がでしょうか。
(地域活動支援センター)

水や土に含まれる微量成分を分析 日頃から分析室清掃や器具洗浄を徹底

皆さんは環境調査、環境分析と聞くとどのような仕事だと思いますか?あまり馴染みのない言葉で、イメージがわからない方もいらっしゃると思います。「環境」という言葉自体は「周辺を取り囲んでいるもの」という意味で、他の単語と合わさってさまざまな意味を持ちます。例えば自然環境、生活環境、作業環境、職場環境や腸内環境などです。微量分析課では、これらの環境の中で特に自然環境の調査・分析を行います。具体的には海、川や山の試料(水や土)を採取して、試験室に持ち帰り、試料中の微量に含まれる金属成分などの分析を行います。微量というのは、だいたい10億分の1から1000兆分の1くらいの物質の濃度のことです。これはマツダスタジアムの中にある塩10粒くらいのイメージです。

環境協の
環境生活
センター
⑤1微量分析課

止の場所に許可を得て立ち入ると、今までに見たことのない景色に出会えるという楽しみがあるのですが、大量の採取後試料の持ち帰りという重労働が付いてきます。

試料の分析ではとても高価な分析装置が必要で、広島市内で新築マンションが買えるくらいの金額のものも存在します。微量成分の正確な分析のため、分析室の掃除の徹底、使用器具の十分な洗浄や分析装置の調整などに注意を払っています。

少し前にはダイオキシン類という有害物質が世間を騒がせました。最近では有機フッ素化合物(PFAS)が問題視されています。微量分析課では、ダイオキシン類だけでなくPFASも採取から分析まで行っています。PFASの分析は、水だけでなく土や廃棄物、工場の排ガスの問い合わせが近年増えており、これらの問い合わせに応えるべく、調査・分析の体制強化に力を入れています。

(微量分析課 川中 岳志)



河川の水を採取する職員



PFASの分析を行う職員

災害時ペットの安全確保も重要

平時から一緒に避難できる備えを

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。



災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。

災害時には、まず自身の安全を確保することが重要ですが、ペットの安全を確保することも飼い主の責任でもあります。



ペットと一緒に同行避難できる避難所について

食品生活衛生課
(広島県健康福祉局)